

エコアクション21

環境活動レポート

平成29年度版



株式会社大東環境科学 総合技術センター 外観

発行年月日：平成30年 8月29日

対象期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

株式会社 大東環境科学

目次

1. 事業概要	1
2. 組織の概要	2
3. 環境方針	4
4. 環境目標	5
5. 環境活動計画及び実施状況の評価	6
《Coffee Break1》	8
6. 環境目標の実績	9
《Coffee Break2》	12
7. 環境法令の遵守	14
8. 代表者による評価	15
9. 次年度以降の取組について	16

1. 事業概要

私たち株式会社大東環境科学は、さまざまな環境測定・分析や予測・評価を実施し、正確なデータを迅速にお客様に提供することで、自然環境の保全や公害の防止、廃棄物の適正処理、環境法令の遵守、などのお手伝いをさせていただいております。

以下に、私たちの業務内容について、項目ごとに簡単に紹介いたします。



- ・環境アセスメント：大規模な事業活動による環境への影響を把握し、その影響を可能な限り小さくします。
- ・生活環境影響調査：特に廃棄物処理施設において、事業活動の環境に対する影響を調査し、それらを低減するための提案をします。
- ・河川水、地下水等モニタリング：環境水中の有害物質等による汚染状況を分析します。

・ばい煙量等測定、騒音振動測定、排水・土壌・廃棄物分析など：工場等から排出される有害物質の濃度を把握し、環境法令による規制を遵守しているか確認します。

・室内化学物質空気環境測定：おもにシックハウス症候群防止のため、建造物の新築時や改築



時に、室内の空气中に存在する有害物質の濃度を測定し評価します。

- ・作業環境測定：工場等で作業環境中の有害物質や騒音を測定し、労働者が安全で快適に働ける環境であるか評価します。
- ・飲料水水質検査：水道水や井戸水など、飲料水中に有害物質が含まれていないか検査し、安全な水であることを確認します。

・放射線量測定、放射性物質分析：放射性物質による汚染の状況を測定します。放射線量測定は現地での空間線量（単位 $\mu\text{Sv/h}$ ）を測定し、放射性物質分析はサンプル中に含まれる放射性物質濃度（単位 Bq/kg ）を核種ごとに分析します。

・空気環境測定：特定建築物等の室内の気温、相対湿度、気流、粉じん、二酸化炭素、一酸化炭素等を測定し、異常がないことを確認します。

・アスベスト（石綿）分析：建材中のアスベスト含有の有無を分析します。含有している場合は種類を特定し、含有率を定量分析します。また、建築物の部材中にアスベストが含まれているかどうか、事前調査を行います。

その他、いろいろな測定・分析・調査を通じて、私たちはお客様の環境負荷の低減に寄与いたします。



2. 組織の概要

2.1 組織名及び代表者名

組織名 : 株式会社 大東環境科学
代表者名 : 代表取締役 小山 克也

2.2 事業所の所在地

- ①登記上本社（無人・倉庫）：〒020-0836 岩手県盛岡市津志田西一丁目2番23号
- ②本社（総合技術センター）：〒028-3621 岩手県紫波郡矢巾町大字広宮沢
第1地割265番地
- ③東京営業所（常駐者1名）：〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-2 香洋ビル3階
- ④仙台営業所（常駐者2名）：〒989-3122 宮城県仙台市青葉区栗生2-10-7
- ⑤北上営業所（常駐者無し）：〒024-0056 岩手県北上市鬼柳町卯の木216-7

③及び⑤は、他社が所有する建物の一部を借用しており、個別の電力使用量、水道使用量、一般廃棄物排出量等は把握できません（当社員が使用した分だけ把握することが困難）。また、⑤は総合技術センター所属の営業員が出張して使用しています。③及び⑤の常駐者はEA21構成員となっています。

点線内の①～⑤の5事業所が、EA21認証登録サイトです。

2.3 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者： 吉田 学
連絡先電話番号： 019-698-2671
FAX 番号： 019-697-1660

2.4 主な事業活動の内容

環境計量証明事業（濃度、音圧レベル、振動加速度レベル）
作業環境測定機関
建築物飲料水水質検査業
建築物空気環境測定業
建築物貯水槽清掃業
厚生労働省登録水道法水質検査機関
厚生労働省登録簡易専用水道管理検査機関
環境省土壌汚染指定調査機関
温泉分析登録機関
その他、各種の調査、分析、測定

2.5 認証登録範囲

認証登録範囲：全社、全事業活動、全従業員

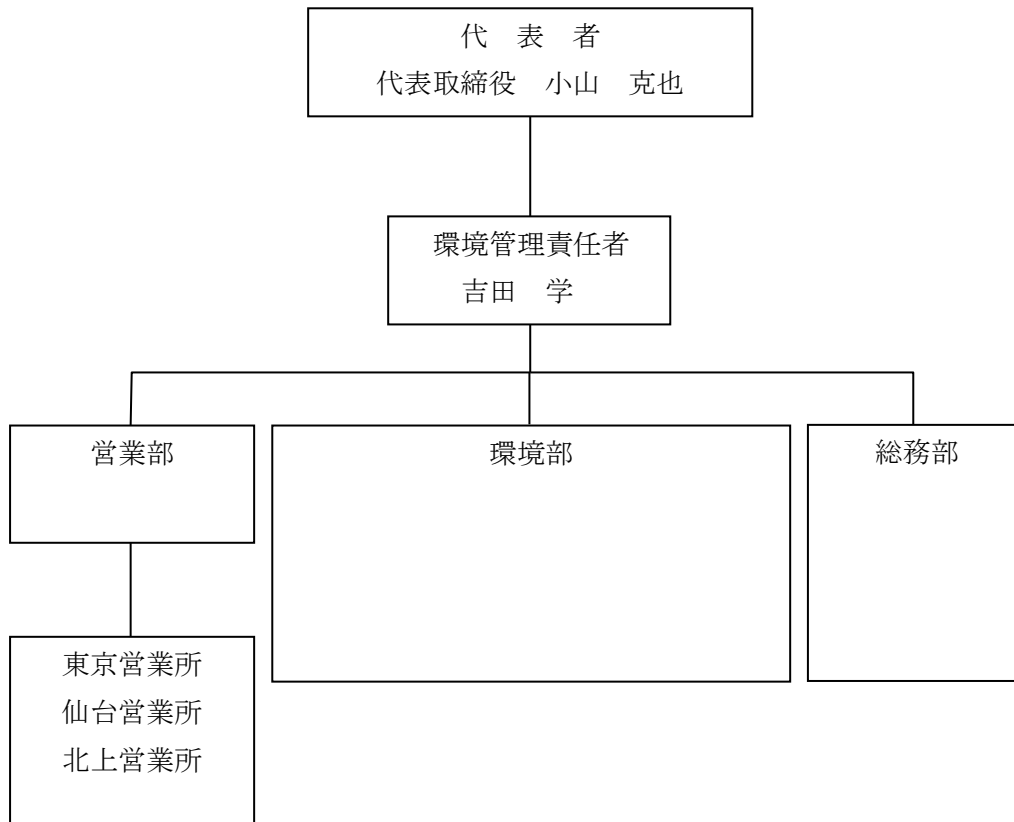
2.6 事業の規模

売上高：6億5258万円（平成28年10月1日～平成29年9月30日）

従業員数：49名（平成30年4月1日現在）

事業所の述べ床面積：1305.23 m²

2.7 組織図



3. 環 境 方 針

当社の環境方針を以下に示します。

環 境 方 針

弊社は、社員全員が一丸となり、地域社会の環境保全に寄与し、もって未来の人類に素晴らしい自然環境を引継ぐよう、以下の環境行動指針に従って行動します。

環 境 行 動 指 針

- 1 弊社の商品は、環境データとしてお客様の環境負荷を低減するために使われます。弊社はお客様の環境負荷低減のため、正確なデータを短納期で提供するように努めます。また、より環境負荷の小さい測定分析方法を選択することにより、測定分析に係る環境負荷を低減します。
- 2 電力使用量、ガス使用量、水道使用量を削減し、省エネ・省資源に努めます。
- 3 エコドライブを実践し、燃料消費量の削減と排ガスの抑制に取り組みます。
- 4 分析に使用する試薬類を管理し、使用量の節減に努めます。
- 5 資源の Reduce、Reuse、Recycle に努め、廃棄物の量を軽減します。
- 6 作業、記録の電子化を推進し、紙資源の使用を抑制します。
- 7 整理整頓清掃 (3S) に努め、作業の効率化を図って環境負荷を低減します。
- 8 エコマーク製品等、環境にやさしい商品の購入に努めます。
- 9 事業活動に関連する法規制は、確実に遵守することを誓約します。
- 10 上記活動を実践することにより、温室効果ガスの排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献します。

平成23年 5月23日

株式会社 大東環境科学

代表者 代表取締役 小山 克也



4. 環 境 目 標

平成 27～29 年度の中期環境目標は以下のとおりです。

中期環境目標（平成 27 年度～平成 29 年度）

- ①CO₂ 排出量を年間 269.058 t 以下にする（絶対量目標）
- ②業務量 1 億円あたりの CO₂ 排出量を 49.3 t 以下にする（相対量目標）
- ③電力、LPG、ガソリン、軽油、水道、コピー用紙、試薬使用量及び廃棄物排出量をそれぞれ平成 26 年度と同量以下に抑制する（項目別目標）

環境目標設定理由:平成 27～29 年度の中期環境目標設定では、大きな削減案がないため、平成 26 年度のデータを目標値として設定しました。平成 24 年度及び平成 25 年度のデータは、東日本大震災の影響が色濃く残っているため、目標値としてはふさわしくないと判断しました。但し、CO₂ 排出量は、電力使用量の CO₂ 排出係数を 0.591kg-CO₂/kWh（2013 年度の東北電力の CO₂ 排出係数）として再計算した値を用いています。

上記の各数値目標の詳細を以下に示します。

項目	指標	単位	環境目標値	主幹	備考
防止 地球温暖化	CO ₂ 排出量	t-CO ₂	269.058	全部門	
	電力使用量	kWh	238,704	全部門	CO ₂ 排出量のサブ指標
	LPG 使用量	m ³	799.3	環境部門	CO ₂ 排出量のサブ指標
	ガソリン使用量	L	43,303	全部門	CO ₂ 排出量のサブ指標
	軽油使用量	L	8,566	環境部門	CO ₂ 排出量のサブ指標
省資源・リサイクル	水道使用量	m ³	1,847	環境部門	
	コピー用紙使用量	t	2,1076	全部門	
	試薬使用量	t	0.946	環境部門	
	廃棄物排出量	t	51.230	全部門	
	産業廃棄物排出量	t	46.645	環境部門	廃棄物サブ指標
	一般廃棄物排出量	t	4.585	全部門	廃棄物サブ指標
	グリーン購入の取組 (エコ商品購入率)	%	70	総務部門	エコ商品購入率は商品リスト品数でチェック
環境 コミュニケーション 他	受注目標の達成	万円	6 億 3000 万円	営業部門	期間:H29.4.1～H30.3.31
	環境活動レポートの 充実化	—	—	環境部門	定性項目
	社外清掃活動	回/年	2	総務部門	西部工業団地主催
	敷地内清掃、社内緑化	—	—	総務部門	定性項目
	環境教育	回/年	2	全部門	全体教育:年 2 回 エコドライブ教育: 各部門で年 1 回

注:電力使用量の二酸化炭素排出係数 0.591 kg-CO₂/kWh として算出

(出典:平成 25 年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について 環境省)

5. 環境活動計画及び実施状況の評価

環境活動計画及び実施状況の評価を下表に示します。

環境活動計画の項目	評価
① 電力使用量の削減 事務室のエアコン設定温度を冷房時は 28℃以上、暖房時は 20℃以下 実験室のエアコン設定温度を設定し、表示する エアコン使用時の部屋の上下の温度差を小さくするため、扇風機を利用する 使用していない部屋のエアコンは切る 昼休み時間中は照明を消す 使用していない場所の照明はこまめに消す 使用していないパソコンのディスプレイ電源を切る 使用していない分析機器の主電源を切る 使用していない充電器等はコンセントから抜く（待機電力のカット） 天井照明は蛍光灯から LED 灯に変更する エアコン更新時は消費電力の少ない機種を選定する 最大需要電力抑制のため、冷暖房スイッチを入れる時間をずらす	良好 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ 変更済 ○ ○
② ガソリン・軽油使用量の削減 駐車場ではアイドリングストップ 急発進、急停車を控えてエコドライブ 車両に不必要な荷物を積まない（車重を軽くする） 車両整備、車内清掃を月に 1 回実施する タイヤの空気圧を定期的に点検する 現場への直行直帰を奨励する（走行距離の短縮） 連日同じ現場に行くときは宿泊を奨励する（走行距離の短縮）	良好 ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
③ 水道使用量の削減 水を出しっぱなしにしない 洗い物はできるだけまとめて行う 洗い物担当者に節水教育を実施する（環境部門） ピペット洗浄器は終夜運転せず昼間に使用する 節水コマの設置	良好 ○ ○ ○ ○ 設置済
④ コピー用紙使用量の削減 コピー用紙の裏面利用の徹底（再印刷、メモ） 不必要な印刷はしない 各種証明書、報告書は両面印刷する	良好 ○ ○ ○
⑤ 廃棄物の削減 廃棄物は分別して廃棄する 廃棄物の排出量を把握する	良好 ○ ○
⑥ 試薬使用量の削減 試薬は適正量を購入し、期限切れによる試薬の廃棄を抑制する ノルマルヘキサンなど、再利用可能な試薬類は、分析の精度に問題がないことを確認して再利用する	良好 ○ ○
⑦ 関係法令の遵守 各種法令、規制を遵守する	良好 ○
⑧ 環境にやさしい商品の積極的な購入 物品の購入時には、環境にやさしい商品を優先的に購入する	良好 ○

<環境活動計画の総合的な評価>

① 電力使用量の削減

冷暖房の使用温度設定、照明の点灯、OA 機器の使用、待機電力カットなど、各人の節電意識が高まっており、節電は概ね良く実施されています。

② ガソリン・軽油使用量の削減

エコドライブは各部門で年 1 回教育を行っており、概ね良く実施されています。走行距離の短縮は、業務に支障の出ない範囲で、可能な限り実施されています。

③ 水道使用量の削減

洗濯物のまとめ洗いや冷却水の循環使用など、節水活動は特に分析課において良く実施されています。

④ コピー用紙使用量の削減

不要印刷物の削減、両面印刷の徹底、裏面利用など、紙資源の削減は概ね良く実施されています。

⑤ 廃棄物の削減

廃棄物の分別は良く実施されています。また、廃棄物の排出量は一般廃棄物・産業廃棄物ともに、適正に把握できています。

⑥ 試薬使用量の削減

試薬は適正量を購入すること、試薬の管理を適切に実施する等の活動を行っています。

⑦ 関係法令の遵守

各種法令に対する違反事例は認められず、適正に遵守されています。

⑧ 環境にやさしい商品の積極的な購入

概ねよく実施されています。

以上から、平成 29 年度の環境活動は、計画通り良く実施されていると評価しています。

<<Coffee Break>> その1

太陽光発電装置の概要

弊社屋上に設置している太陽光発電装置は、平成 25 年 8 月から稼働を開始しております。太陽電池モジュール 45 枚（3 段×15 列）を 1 セットとして 4 セット並べており、トータルでの最大出力は 45kW となっています。下表に仕様を列挙します。

太陽光発電装置仕様

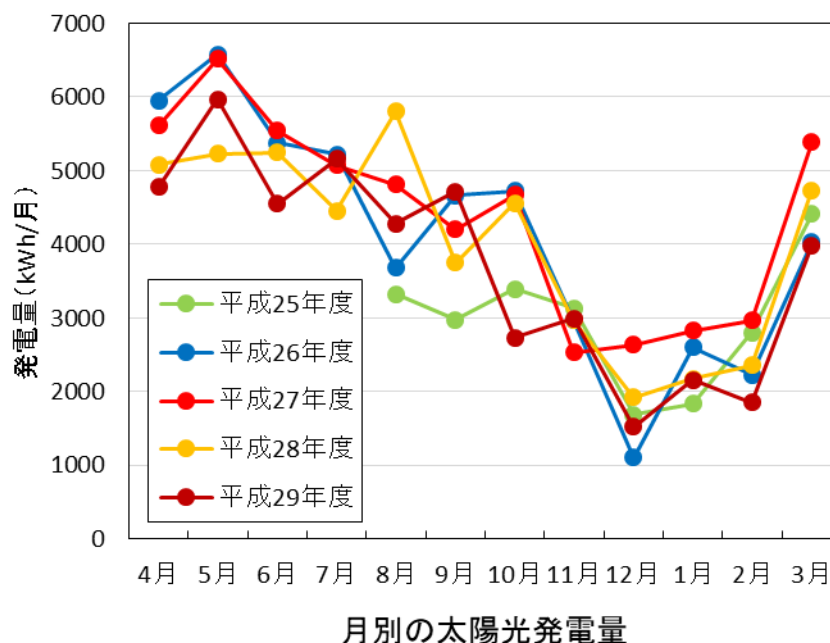
項 目	仕 様
太陽電池モジュール	東芝製 TA60M250WA/J 180 枚 最大出力 45kW (250W×180) 最大変換効率 15.29% 外形寸法 1650mm×991mm×40mm (1 枚あたり) 性能規格 IEC61215:2005 安全規格 IEC61730-1,2:2004
パワーコンディショナ	G S ユアサ製 三相ラインバック Σ III インバータ方式 電圧型電流制御方式 総合効率 94.0% (JIS C 8961)
架台	4 列 (1 列 24.9m×3.0m)

発電量は、会社の表玄関フロアに液晶モニターがあり、ほぼリアルタイムで発電量がわかるようになっていました。平成 29 年度の発電量はトータルで 44,682kWh でした。月ごとの発電量の推移を下図に示します。

月別で見ると、5 月が最も発電量が多く、冬場（11～2 月）は、日照時間と雪の影響で発電量が少ないようです。

弊社の平成 29 年度の電力使用量は 257,087kWh でした。太陽光発電により使用電力の 17.4%を賄えた計算になります。

現状で 4 年半経過しましたが、メンテナンス等の追加費用は発生しておりません。順調に稼働しております。来年度以降も、引き続きデータを収集していこうと思っています。



6. 環境目標の実績

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの実績は次の通りです。

項目	指標	単位	環境 目標値	実績値	目標達成率 (%) (実績値/目標値×100)	達成状況
地球 温暖 化防 止	CO ₂ 排出量	kg-CO ₂	269,058	249,426	92.7	達成
	電力使用量	kWh	238,704	212,405	89.0	(達成)
	LPG 使用量	m ³	799.3	615.0	76.9	(達成)
	ガソリン使用量	L	43,303	40,811	94.2	(達成)
	軽油使用量	L	8,566	9,649	112.6	(達成せず)
省資源 ・リ サイ クル	水道使用量	m ³	1,847	1,554	84.1	達成
	コピー用紙使用量	t	2.1076	1.8944	89.9	達成
	試薬使用量	t	0.946	0.661	69.9	達成
	廃棄物排出量	t	51.230	12.203	23.8	達成
	産業廃棄物排出量	t	46.645	8.117	17.4	(達成)
	一般廃棄物排出量	t	4.585	4.086	89.1	(達成)
	グリーン購入の取組 (エコ商品購入率)	%	70	84.4	—	達成
環境 コミ ュニ ケー ション 他	受注目標の達成	万円	66,000	68,073	103.1	達成
	環境活動レポートの 充実化	—	—	—	—	定性項目 達成
	社外清掃活動	回/年	2	2	100.0	達成
	敷地内清掃、社内緑化	—	—	—	—	定性項目 達成
	環境教育の実施	回/年	2	2	100.0	達成

注：電力使用量は、太陽光発電分を差し引いています。

各項目について

最も大きな目標である CO₂ 排出量は、目標値よりも 7.3% 減少しており、目標を達成しました。また、CO₂ 排出量のサブ指標である電力、LPG、ガソリン使用量は目標を達成しましたが、軽油使用量は、目標を 12.6% 超過し、達成できませんでした。

水道使用量では、目標値より 15.9% 減少しており、目標を達成しました。

コピー用紙使用量では、目標値より 10.1% 減少し、目標を達成しました。

試薬使用量では、目標値より 30.1% 減少し、目標を達成しました。

廃棄物排出量では、目標値より 76.2% 減少し、目標を達成しました。特に産業廃棄物の大幅な減少が目立ちますが、このほとんどは土壌調査で採取される土壌サンプルの廃棄分と思われま。今年度は廃棄量が少なかったため、このような数値となっています。

グリーン購入ではエコ商品率が 84.4% となり、目標値 70% 以上を達成しました。

受注目標では目標を 3.1% 上回り、目標を達成しました。

環境活動レポートの充実化では、文章の修正やコラム欄の充実など、より読物として面白く、読まれた方の興味関心を引くようにしています。

社外清掃活動、敷地内清掃、社内緑化、環境教育の実施、については、それぞれ予定通りに実施しました。

ここで、弊社の平成 22～29 年度の環境負荷データの推移を以下に示します。

環境負荷データの推移

項目	単位	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
CO ₂ 排出量	補正前	215.7	203.9	267.2	276.2	258.3	249.1	247.1	249.4
	補正後	254.7	248.9	277.6	286.7	269.1	249.1	247.1	249.4
電力	kWh	232,521	223,783	236,778	238,729	238,221	215,443	213,948	212,405
LPG	m ³	621	477	827	905	799	651	572	615
ガソリン	L	33,927	37,797	45,457	48,545	43,303	42,045	41,051	40,811
軽油	L	13,209	9,887	10,291	10,413	8,566	7,673	8,320	9,649
水道	m ³	1,748	1,558	2,060	2,011	1,840	1,722	1,538	1,554
コピー用紙	t	1.6912	1.4417	1.7182	1.8923	2.1076	1.8019	1.8546	1.8944
試薬	t	—	—	1.073	0.966	0.946	0.786	0.837	0.661
廃棄物	t	11.433	13.590	8.587	13.076	51.230	11.108	31.747	12.203
産業廃棄物	t	6.984	9.416	4.910	8.612	46.645	7.053	27.730	8.117
一般廃棄物	t	4.449	4.174	3.677	4.464	4.585	4.055	4.017	4.086
受注額	億円	5.1672	5.0682	5.6162	7.3777	7.2744	6.4315	6.4003	6.8073
業務量	億円	—	—	—	—	5.4629	5.3079	5.3493	5.936
業務量 1 億円当りの CO ₂ 排出量	補正前	—	—	—	—	47.3	46.9	46.2	42.0
	補正後	—	—	—	—	49.3	46.9	46.2	42.0

注 1：CO₂ 排出量（補正後）は、電力使用量の CO₂ 排出係数を 0.591 kg-CO₂/kWh として再計算した値。

注 2：業務量 = 売上高 - 外注加工費

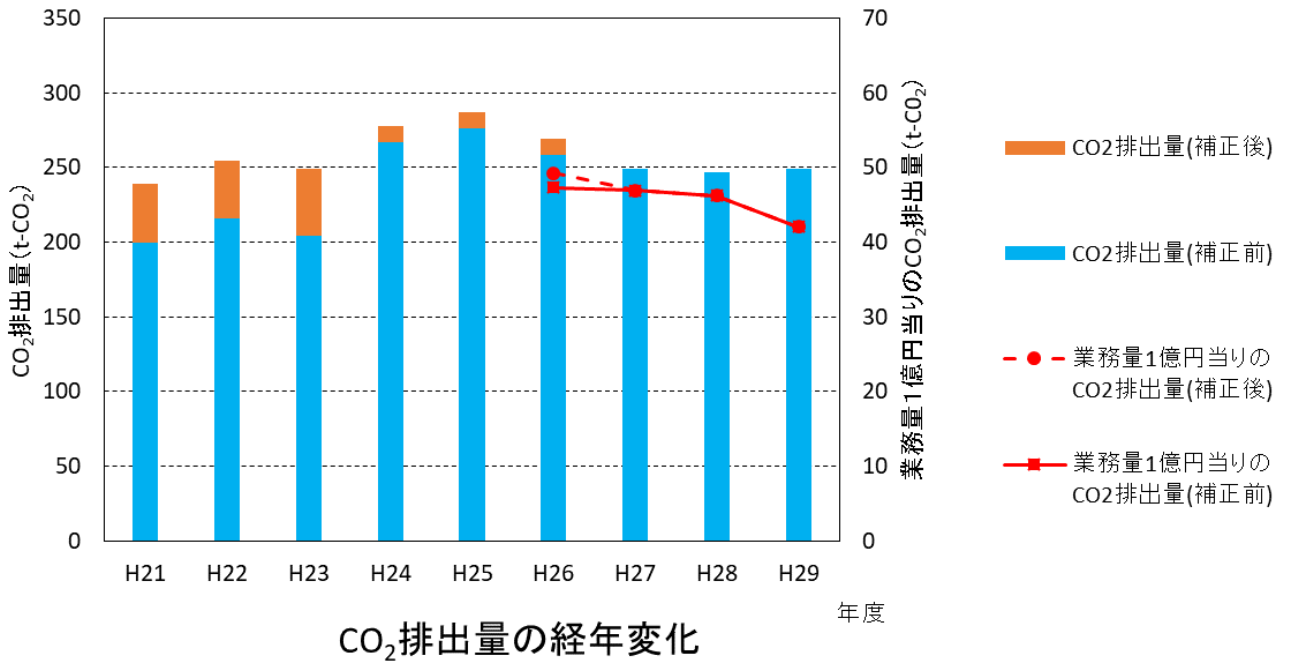
注 3：H22～H25 については業務量未設定。

次ページのグラフで（補正後）とあるのは、電力量 1kWh あたりの CO₂ 排出係数を 0.591 kg-CO₂/kWh として再計算したものです。

弊社の CO₂ 排出量は、平成 25 年度をピークとして、その後漸減しておりましたが、平成 29 年度では平成 28 年度より微増しています。

平成 27 年度の環境目標から、業務量（売上高から外注加工費を差し引いたもの）という概念を取り入れております（データ取りは平成 26 年度より実施）。これは弊社が実業として行う業務の量を金額として設定したものです。外注加工費は弊社から外の業者に委託したものですから、業務量には入れないようにしております。

業務量 1 億円当たりの CO₂ 排出量は、平成 26 年度から平成 29 年度にかけて漸減してきており、作業効率は良くなってきているものと自己評価しております。



<<Coffee Break>> その2

① 最大需要電力抑制の取組について

平成 25 年度以降、最大需要電力を少しでも抑制するため、夏期及び冬期に各部屋の冷暖房を入れる時間を 30 分程度ずらす試みを行っています。

前年度の最大需要電力は 85kW（平成 29 年 2 月）でありましたが、今年度は 90kW（平成 30 年 1 月）に上がってしまいました。確認はできませんが、何回か暖房を同時に入れてしまった可能性があります。

この取組は、今後も続けていきます。

② 電力会社の変更

平成 30 年 2 月より、当社の電力購入先を東北電力からシン・エナジー株式会社（平成 30 年 4 月 1 日に社名変更：旧社名は洗陽電機株式会社）に変更しました。

シン・エナジー株式会社の平成 28 年度の排出係数は、調整後で 0.605 kg-CO₂/kWh となっております。平成 30～32 年度の中期環境目標では、この排出係数で補正した値を CO₂ 排出量の目標値といたします。

③ 環境ラベルについて

その商品がエコ商品なのかどうかを見分けるには、ついている環境ラベルの意味がわからないといけません。今回は、そんな環境ラベルについていくつかご紹介しようと思います。

環境ラベルと言ってもその種類はものすごく多いです。とても全部は紹介しきれませんので、有名どころだけご紹介します。また、環境ラベルの画像は勝手に使用するべきではありませんので、添付は致しておりません。ご了承ください。

もし詳細を知りたい方は、環境省の HP に「環境ラベル等データベース」がありますのでそちらを参照ください。

1. エコマーク

このマークは日本で最も有名ではないでしょうか。エコマークは日本で唯一のタイプ I 環境ラベルだそうです。このマークは、生産から廃棄に至る製品のライフサイクル全体を通して環境負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた製品に付される環境ラベルで、厳しい認定基準があるということです。

確かにエコマークは超一流の環境ラベルですが、ハードルが高いようで登録されている商品は全部で 5500 件程度とかなり少ないです。逆にいえば、エコマークがついていなくてもエコな商品はたくさんある、ということになります。

2. 国際エネルギースタープログラム

パソコンやプリンタ複合機などに貼られています。消費エネルギーが少ない機器を一定の基準で認定しているようです。ただ、LCA（ライフサイクルアセスメント）までは考慮されていないようです。LCA とは、その製品を製造するところから消費、廃棄されるまでの環境負荷量を評価することです。

3. 統一省エネラベル

省エネ法に基づき、小売事業者が省エネ性能の評価や省エネラベル等を表示する制度です。それぞれの製品区分における当該製品の省エネ性能の位置づけ等を表示しています。ただし表示される製品はエアコン、テレビ、電気冷蔵庫、電気便座、照明器具（蛍光灯器具のうち家庭用のものに限る）の5品目に限られるようです。

4. FSC マーク、PEFC マーク

森林管理の認証を受けた森林からの木材・木材製品であることを認証するマークです。

計画的に森林を管理することは、大気中の二酸化炭素を効率よく固定することにつながるため、とても大切なことと思います。

④ いわて地球環境にやさしい事業所認定制度について

岩手県では、平成16年度から「いわて地球環境にやさしい事業所」認定制度ができていますのでご紹介します。弊社は「☆☆☆☆」に認定されています。

認定の基準は以下の通りです。

「☆」：二酸化炭素排出抑制に具体的に取り組んでいる。従業員のマイカー利用による二酸化炭素排出抑制に具体的に取り組んでいる。エコスタッフが常駐している。

「☆☆」：「☆」プラス、環境マネジメントシステムを保有する。

「☆☆☆」：「☆☆」プラス、ISO14001 又は IES（いわて環境マネジメントシステム）又はエコアクション21などの認証を取得している。

「☆☆☆☆」：「☆☆☆」プラス、二酸化炭素の排出の抑制に向けた具体的な取組みの成果が認められる。

平成30年7月31日現在、岩手県内で認定された事業所は☆28、☆☆31、☆☆☆24、☆☆☆☆120事業所となっています。

7. 環境関連法令の遵守

弊社に関係する各種法令（計量法、労働安全衛生法、水質汚濁防止法、道路交通法、放射線障害防止法、廃棄物処理法、消防法等）に対する違反行為は、チェック表を使用して環境管理責任者がチェックした結果、平成29年4月1日～平成30年3月31日の期間で0件でした。

関係各所からの不法行為等の指摘事項はありませんでした。

当社に対する環境関連の訴訟もありませんでした。

8. 代表者による評価

平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの環境活動実績の代表者による評価は、以下のとおりでした。

- ① 平成 29 年度は、当社の CO₂ 排出量は絶対量、相対量ともに環境目標を達成することができた。
- ② 平成 26 年度の結果を目標とし取り組んできた平成 27 年度以降の活動は平成 29 年度で終了となった。現在の状況を分析し、平成 30 年度以降の中期環境目標を新たに設定する必要がある。
- ③ 電力使用量、ガソリン使用量、LPG 使用量、水道使用量はそれぞれ環境目標値を達成しており、特に問題はなかったが、軽油使用量が目標値を達成できなかった。
- ④ コピー用紙使用量、廃棄物排出量、試薬使用量も目標をクリアしていた。
- ⑤ 社用車の燃費は、ガソリン車、ディーゼル車とも前年度の燃費を下回った。(H29/H28 ガソリン車 13.81/14.30 \div 0.966、ディーゼル車 10.70/11.01 \div 0.972) 今後も引き続きエコドライブを推進することと、社用車更新時には燃費の良い車を導入するようにし、燃費向上に努める。
- ⑥ 走行距離短縮のため、引き続き現場への直行直帰、現場での宿泊を推奨する。
- ⑦ 社員の意識啓発のため、エコ教育を積極的に行う。
- ⑧ 引き続き品質システム(ISO9001)と EA21 の融合を進める。
- ⑨ 太陽光発電については来年度も引き続きデータを収集し、その効果を評価する。

以上

9. 次年度以降の取組について

- ・平成 30～32 年度の中期環境目標を、平成 27～29 年度のそれぞれの環境データを基に設定し、取り組んでいきます。
- ・基本的な環境活動は、社員各々が当社の「環境活動指針」に基づいて実施します。



弊当社屋上に設置された太陽光発電装置：パネル4列で最大出力は45kW。

- ・燃料使用量の削減：現在、社用車としてハイブリッド車（プリウス、アクア）を6台保有しています。今後も社用車更新時には、燃費の良い車を積極的に導入していきます。車両整備とエコドライブで燃費の改善を目指します。走行距離の短縮のため直行直帰、現場での宿泊を推奨します。
- ・毎週月曜日に品質委員会を開催しています。この場において、EA21 関係の問題や改善事項についても検討していきます。
- ・引き続き品質マネジメントシステム（ISO9001）とエコアクション21の統合を図ります。
- ・エコアクション21ガイドラインの改訂に伴い、必要な改善を行います。また必要な文書作成及び文書改訂に努めます。

以上

エコアクション21 環境活動レポート 平成29年度版

平成30年8月29日 発行

発行責任者：環境管理責任者 吉田 学



巻末写真：弊社出入口付近に設置されている小型風力発電機（夜間照明用）。